

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 5月 2日

事業所名 運動療育スタジオspark箕面

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	1つのスタジオで同時時間に2~3名、空間を分けて受け入れています。	
	2 職員の配置数は適切である	60%	40%	発達段階に応じて最低1人は療育士を配置しています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	80%	20%	トイレと洗面台に手すりがありません。また、洗面台の前に踏み台を用意し、お子様に応じて手が洗いやすいようにしています。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	毎月の目標や前月の振り返りを全員で共有できています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		毎年アンケートを出していただき、改善策を立てています。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%	集計し公表しています。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	80%		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	月1度、療育を深堀りする研修を実施しています。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	支援計画作成時にスタッフ間で児童の様子について意見交換を行っています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	独自でアセスメントシートを用いて1人1人の発達段階や特性を共通認識できるようにしています。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	療育ミーティングを行い、情報共有を行っています。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%	スタッフを担当化せずたくさんのスタッフが関わっています。また、お子様の興味に合わせて療育プログラムを提供しています。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	40%	60%	土日祝には課外での療育を取り入れています。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	児童の特性に配慮しながら個別療育か小集団の療育を行っています。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	きめ細やかな療育ミーティングを心がけています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	毎日終礼時に、気付きを共有しています。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	アセスメントシートを用いて児童の状態を把握し、半年に一度計画書の見直しを実施しています。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	40%	60%	保護者の方を通して必要に応じて行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	80%		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0%	100%		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	40%	60%		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60%	40%		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0%	100%		現場スタッフが参加することはほとんどできていないため、参加できる機会があれば参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	保護者の方と発達状況や課題を共有し、療育の中で取り入れるようにしています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	積極的に声掛けとフィードバックを行っています。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	体験時・契約時に説明しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	80%	20%	保護者交流会を実施しています。	保護者交流会を実施したがまだ継続的な取り組みが出来ていない為、多くの保護者の方が参加していただけるような機会をつくっていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	どのようなご意見も真摯に受け止め対応するようにしています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	20%	80%		
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	視覚的情報も用いながらコミュニケーションをとるようにしています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	0%	100%		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40%	60%	エントランスや重要事項説明書に協力医療機関や近隣病院の情報を掲示しています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0%	100%		地震や火災を想定した訓練を、定期的を実施致します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	60%	40%	児発管が外部研修に参加し、他のスタッフへ情報提供を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	20%	80%	身体拘束をすることがないように、療育ミーティングの際に十分話し合っています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%		食事提供をしていません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	60%	40%		情報の共有は行なえているが、「事例集」はないため作成を行います。